

**樫谷議員** おはようございます。通告していました2点について質問させていただきます。まず1点目の「牟岐町小中学校にエアコンの設置を」について質問します。徳島県内の市町村で小中学校のエアコン設置状況に大きな差が生じています。小中学校100%実施されているのは吉野川、三好、佐那河内、石井、神山、那賀、松茂、北島、板野、つるぎ、東みよしの11市町村ですが小中学校とも100%に達しています。2町だけが0%である。そのうちのひとつが牟岐町です。2014年4月時点では、残りの6町村が急速に普及している。美馬市はこの夏、全8小学校で稼働を始め、阿波市はこの夏休み中に全小中学校で工事をはじめ、藍住、上板も未設置教室の工事を夏休み中に行っています。他の町も100%になる予定です。海陽町の海南小学校PTAでエアコンの設置を求める要望書が提出され、海陽町議会がこの9月議会で採択され、できるだけ早く整備する方向でいるとしています。真夏日が60日を超えたのは、1980年から99年に4回だったのが、2000年から16年は12回と3倍になっています。真夏に30度以上の温度が続く中、子ども達の体調管理などを考慮して整備が加速する中、牟岐町では、小学校では0%、中学校では20%です。設置されているのは中学校のどこの教室かお聞きいたします。猛暑の傾向は今後も増加傾向にあると思います猛暑が続く中、子ども達の体調管理や熱中症から守るということは、ひいては子ども達の命を守ることにもつながります。エアコンを設置した児童からは、「涼しくなって先生の話や授業に集中できるようになった」とあります。つまり、学力の向上にもつながるということではないでしょうか。エアコン格差が生まれている現状を踏まえ、空調の設備に要する経費及びその関連工事は交付金が受けられる状況でもありません。先日の全員協議会での説明では、31年度に考えは持っているようですが、私は、現在十分使われていない町民センターの工事よりエアコン設置の工事の方が優先であると考えています。早く交付金の手続きをし、来年の夏休みにはエアコンの設置100%を目標に一日も早い取り組みを求めるものです。つぎに庁舎建設に向けて位置・機能・規模財源確保について一般質問させていただきます。火の車の牟岐町の財源状況を踏まえ、補助金が望めない中、建設

執行しなければならない現状、つまり、自主財源で建設しなければならない状況である。しかし、伸ばし伸ばしにできる状況でもありません。つまり、財源ができるまで待てない状況で、しかも今年度中に移転先が決まれば、用地の設計・整備、そして、庁舎の設計・建築、ひいては引っ越しと一連の作業でぐずぐずしている間はありません。南海トラフ地震に向け、また、近年増加傾向にある。今年は記録的な大雨が90回とされています。そのような豪雨、ハリケーンに向けても一日も早い取り組みが必要であると考えます。早急に取り組むとしても何億という財源がたちまち必要になります。本町の必要な財源として、最低限約35億円です。しかし、町の基金残高が10億円、つまり、3分の1の財源しかありません。基金10億円も自転車操業で使えるお金ではありません。庁舎建築に充てて事前に積み立て金をしておくべきところですが、それもできていない現状です。今からでも庁舎建設にあたり積立金をするべきではないでしょうか。そこで、このような状況を踏まえ、庁舎建設において、去る4月25日に「牟岐町役場庁舎耐震化・移転等検討委員会」からの答申があり、その内容は「基本的な方針にとどまるが庁舎場所は①津波の浸水地域外が望ましい。②町の中心部から遠くないところが望ましいとのことでした。答申を尊重し、検討が進められている最中と思われませんが、6月議会での町長所信、また、2回にわたる新聞報道、また、6月14日の町長室でのインタビューがあり、言っていることがバラバラです。町民はこれを見て、どれが本当なのか戸惑っています。町長所信では15年ほど旧海部病院に移転し、地方創生を優先すべき、これは選挙公約でもある。また、分庁舎を西と東の中心部に置き、機動的な災害対応を図るとあります。また、新聞報道2件については、「庁舎は津波浸水区域外への移転が望ましい」という庁舎検討委員会の報告書を受け、移転・新築する方針を固め、候補地選定を進めている。本年度中に決めるともあります。また、NHKインタビューにおいては、できるだけ中心部にあった方がいい、しかし、浸水区域にあつて防災上望ましくない、住民の代表者の方々の意見をいただきながらまとめていきたいとあります。町民の代表である選挙で選ばれた議員の意見を聞く気もないようですので、あえて質問し

ます。旧海部病院へ役場庁舎を移転することに決めているのですか。9月本議会開会日の町長所信では、旧海部病院が現在の役場の2倍ある。大規模改修が必要である。旧海部病院の空調機は撤去、新設する。移転費用が2倍かかる。津波浸水区域にあり職員の安全性の確保ができないと言いながら、旧海部病院跡地に移転するしかないと述べています。だとすれば、町長が招集した検討委員会は、15年後のことを審議しているのですか。ここで重複するかも知れませんが、検討委員会の説明をさせていただきます。牟岐町でも地震津波などの災害時の最も中心となる災害対策本部を設置し、被災者の保護や援護物資の確保を行うべき牟岐町役場が浸水地域にあるために早急に高台移転するべきであるとの声が高まる。平成28年11月22日に牟岐町長福井雅彦氏の指示により、牟岐町役場庁舎耐震化・移転等検討委員会が開催された。牟岐町自主防災会会長、牟岐町議会行政常任委員長、地元の中の島地域住民代表、そして事務局として副町長、担当課長の6名により、基本方針を検討し、その後はさらに人員を増やして、町内各界各層の意見を集約することを確約し第1回の会合を開きました。平成29年2月16日、2回目の会合を開き、平成29年4月25日、第3回目の会合を開きました。約5か月の調査検討の結果を福井町長に報告しました。その報告書は、平成29年6月6日の徳島新聞に牟岐町役場移転へと大きく報道されました。福井町長が報告書を参考に今後は委員と相談して、本年度中にいくつかの候補を決めたいと報道されました。この報告を受け福井町長は、平成29年6月議会の所信表明で平成28年11月、牟岐町役場庁舎耐震化・移転検討委員会を設置、十分にご審議のあと4月25日に答申をいただいています。その内容は、先程申しましたように、1つ目は庁舎の建設場所は津波の浸水区域外の場所が望ましい。2としまして、町の中心部から遠くないところが望ましいとのこと、今後その位置について議論を進めていくこととなるが、まずは地震津波も想定した上でのどのようなまちづくりを進めていくか十分に議論することが必要であると考えたと述べています。もちろん、福井町長が6月議会の所信の中でも、私は先の選挙公約でも挙げていたように、取りあえず15年程度役場機能のうち可能なものは旧海部病院に移転し、

地方創生を優先すべきであると考えていたが、この度、検討委員会から答申をいただいたこともあり思い切って新たな場所へ移転、あわせて考慮するつもりと考えていると述べています。このような6月議会までを踏まえ、福井町長は、平成29年7月20日新たな牟岐町役場移転・建設等検討委員会を設置し、前回の6名の委員の上に農協、東西漁協、婦人会、老人会、商工会、民生委員連合会の12名の委員によりさらに移転に向けて前進のための会合を開催しました。基本方針は前回同様、海部病院、小中学校が高台に移転した経緯から津波浸水地域外が望ましい。住民の利便性を考慮し、町の中心部から遠くないところが望ましい。移転先については、4,000㎡ほどの敷地が望ましいとの基本方針が全員一致で承認し、第2回目の会合は8月30日に行い、町内の候補地5箇所を検討し、全員による意見交換が行われ、9月末予定の第3回の検討委員会では、相当絞り込んだ結果が見込まれていると聞いています。このように町長から事例をもらった牟岐町内各層、各界の町民の皆様方が1年近くに亘り現在真剣に検討を継続中であり、牟岐町議会でも特別委員会を設置し、検討委員会の報告をもとに、議会としてさらに検討を加え、津波に避難場所として災害対策本部として住民の信頼を得られるような役場庁舎の移転先を決めればと思っています。9月議会での福井町長の海部病院跡地への移転理由として、先程述べましたように、当初の委員での検討委員会が3回、その意見を継続し、増員した委員での検討委員会が2回開催されています。12名の各界の代表者により候補地の場所が近く福井町長に報告できる段階にある検討委員会についての見解を、先日開催した第1回目の検討委員会でも多様な意見が出されましたが、今後の見通しとしても簡単につかないとのことでしたので、判断材料の一つとして、私の見解を申し上げますということで旧海部病院移転の見解を述べられました。世の中、どこを探しても町長が任命した検討委員会の皆様が無報酬で真剣に検討を行っており、まさにその成果が実を結ぼうとする直前に町長の独断で個人的な見解を議会本議会で表明するという町長はいないと思います。町長、この件についてどうするつもりですか。また、町長所信での東に一つ、西に一つ庁舎を置くとのことですが、この財源状況を踏まえ、

まだそんな考えを持っているのでしょうか。その財源の確保はどのようにするのかお聞きします。つまり、職員を始め町民も痛みを分かち合わなければなりません。建設費が出てこない現状をどう解決するつもりなのか、切り詰めるところは切り詰め、最低限必要などころはどこかを見極めなければなりません。節約施策はあるのか、財源確保にはどのような施策があるのかお聞きします。以上、答弁をお願いします。

**枘富議長** 福井町長。

**福井町長** エアコンの設置については教育委員会からお答えいたしますので、私は庁舎建設についてお答えいたします。去る4月25日の『牟岐町役場庁舎耐震化・移転等検討委員会』からいただいた答申を元に、鋭意、『役場庁舎移転建設等検討委員会』において、議論を重ねているところと思いますが、現在、検討中で経過報告も受けておりません。今後、協議の過程で、必要と思われる段階で議員の皆様にもご説明するとともに、町民の皆様にも説明してまいりたいと考えています。財源等の詳細は副町長から補足いたします。今の段階では、議員おっしゃっていただきましたけど、詳細は申し上げられません。とにかくこの役場庁舎の問題というのは、ただ、安全性を追求したらいいというのではなく、牟岐町が生き残れるかどうかの瀬戸際にあると思っています。これまでも申し上げましたように、小学校が市宇ヶ丘に移転し、海部病院が高台に移転して、あと役場が移転した場合に中心部がランドになってしまう。そのような中で牟岐町が今後生き残っていけるかどうかということをまず考えていただきたいと思えます。以上です。とりあえず15年間、旧海部病院に移転したらどうかということですが、それは当初そのように考えていたということですが、新しい役場の移転が場所が決まって財源確保できた段階で、できるだけ早く安全上問題のない位置に移転すればいいと思えますけども、その場合でも、やはり牟岐町の中心部、町から主要な施設が出ていくということが、本当にいいのかどうかというのが、町民の皆さんで議論していただきたいと思えます。まだ町民の皆さんの合意というのが中心部からそういう施設が出ていくという合意というのは得られていないと思えます。それをはっきりとさせていただきたいと思っています。庁舎をいくつか分けるという話しですけども、それも地方創生、あるいは、各地域で非常に利便性が悪くなるという中で町民の皆さんがどのように考えられているのかということが、全く検討されていないと思うのです。そこも検討していただいて検討委員会の中でそういうことだというご返事をいただければ十分理

解できると思いますけども、その部分の検討がないと、なかなかそのまま受け取れないと思っています。役場移転検討委員会というのは、安全性だけでなく、牟岐町の将来が急速に衰退していく方向に向かわないかということも併せて考えていただけたらと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

**枅富議長** 久米教育次長。

**久米教育次長** 私からは、牟岐町の小中学校へのエアコン設置についてのご質問にお答えいたします。学校施設の空調設備設置についてですが、まず、新聞報道にあったエアコン設置率は、普通教室への設置率ということで示されています。牟岐中学校は1年から3年まで3クラス、特別支援教室が2クラスあります。合計、普通教室が5クラスということです。中学校のエアコンにつきましては特別支援教室として使用しているビジュアルルームに設置していますので、全5教室中1教室ということで20%です。牟岐町学校施設の整備方針につきましては、発災が確実視されている南海トラフ地震・津波対策事業を先行実施してまいりました。学校施設等の高台移転事業、既存施設の耐震補強事業などの安全対策事業を重点的に実施し、学校施設等の耐震化率100%、また、すべての学校施設等を津波浸水区域外に配置し、安全な学校施設環境を実現することができました。国の方針におきましても、公立学校施設整備に対して、平成27年度まで耐震化事業等安全対策事業に対して重点的に予算配分を行ってきた経緯もあり、事業を進めてまいりました。先週ですが、文部科学省から平成30年度の概算要求の中身が公表されました。文部科学省では、学校施設の構造体に対する耐震化が全国的にほぼ完了したとして、今後については、これは平成29年度以降ですが、今後は「老朽化対策を中心とした教育環境の改善等の推進」、これが方針として打ち出されています。その中では、老朽化対策・空調設備・トイレ改修・給食設備などが明記され、学校施設の安全性や機能性確保が示されており、教育環境の改善と合わせて、災害時に地域住民の避難所としての役割を果たす、防災機

能強化も盛り込まれています。教育委員会では、昨年度、平成28年度ですが、安全対策をほぼ完了したことから、環境改善対策として、空調設備の設置に向けての作業を開始しましたが、役場庁舎や防災事業等大きな事業が想定される中、財政担当課とも協議しながら整備計画の策定を進めてまいりました。整備方針の中で、ご質問の空調設備設置に関しましては、中学校校舎の安全対策としての老朽化改修事業計画、これの策定のための設計業務を本年度中に開始します。その事業計画に合わせて、小中学校の普通教室への空調設備設置事業、避難所としての防災機能強化事業の計画を策定し、平成30年6月に国に対して補助申請を行い、予算措置が行われた場合は、平成31年度に設置工事を実施する予定で事業を進めてまいりたいと考えています。エアコンを来年の夏休みに設置するというのですが、財政の問題もあります。一緒に同時に進めていく事業、全員協議会のときにご説明申し上げました長寿命化計画、これを立てることによりまして、通常公立学校改善対策としまして、国から3分の1、採択されれば補助金があります。この計画を合わせて出すことによりまして、最大あと3分の1の起債措置が受けられるということで、このスケジュールで進めているところでして、そこら辺は教育環境の改善計画と防災機能強化の両面ありますので、財政当局との協議が必要ですし、教育委員会としましては、今最速の事業計画につきましては、平成30年6月の申請が最速であると、あと財源的にも一番有利かというふうな考えです。以上です。

**枅富議長** 大森副町長。

**大森副町長** 私からは、庁舎建設に向けての質問についてお答えします。議員、先程今までの委員会について、おっしゃっていましたが、現在、役場庁舎移転建設等検討委員会で移転用地の検討をしている段階です。浸水区域以外で用地候補となると牟岐町ではかなり限定されてしまいます。浸水区域でなければ土砂災害の危険区域になっていたりします。災害時における物資輸送や避難所の

機能など、様々な面で今、数か所を候補としてメリット、デメリットを検討しているところです。できるだけ早い機会に候補地を絞り、議会へ報告したいと考えています。現在、牟岐町の基金保有額は約10億円です。当然、その金額すべてを庁舎建設に充てるわけにはいきませんので、起債を起こすことになります。借金です。人口が減り続ける中、後年度へ負債を残したくは、当然ありません。今ある制度を有効に利用して、財源確保に努めたいと考えています。庁舎の規模や機能についてはこれからの検討事項になりますが、当然厳しい財政状況の中、コンパクトな庁舎で維持管理の効率性を考慮しなければなりません。ただ、敷地面積については駐車場や他の用途にも利用できるよう広く確保するのが望ましいと考えています。また、機能については防災拠点となる庁舎のため、耐震性、防犯性、安全性に考慮した利用しやすい施設としなければなりません。方向性が決まりましたら、町民に対しての説明会等の開催も考えています。以上です。

**枅富議長** 梶谷議員。

**梶谷議員** ご答弁ありがとうございます。再問させていただきます。「牟岐町小中学校エアコンの設置について」では、町内子ども達が少なくなっている中で、町を担う子ども達の命、安全と安心、集中して学習ができる環境を1日も早く整えていただきたいと思います。先程、工事が着々と進められているということでしたけど、やはりエアコン設置は優先的に進めていただきたいと思います。少なくともゼロが牟岐町だけにならないようお願いしたいと思います。この来年の夏には設置できるような方向で、ぜひとも進めていただきたいと思います。やっぱり優先順位もあると思うのですが、今言ったように子ども達の安全・安心、また、学力向上を図るためにも来年の夏には工事ができるように再度お願いしたいと思います。続きまして、庁舎建設に向けてのうち機能、規模、財源確保について再問します。先だって行政常任委員会での教育委員会での水防倉庫の要望も何も藤元議員の言うような子ども達をじゃけにするつもりは毛頭ありません。リフォームするための財源は、榮議員の言うようにしれていると思います。しかし、それに伴い今までになかった浄化槽の点検や人が住むとなれば、消防の検査も入り消火器などが必要となります。リフォーム代だけでは済まなくなります。削減どころか今までかからなかった経費が毎年発生するよ



うにもなります。そこで水防倉庫のこれからの必要とされる光熱費などはどこが持つのでしょうか、お伺いします。ここに2017年9月2日の徳島新聞記事があります。石井町は、9月1日町税などの滞納世帯を夜間に個別訪問して支払を求める一斉徴収を9月29日まで行うとあります。対象は町税、町民税、固定資産税、国民健康保険税、軽自動車税、介護保険料、町営住宅家賃などを徴収するとあります。午後6時ごろから2時間ほど回り、即日納付や納税相談に訪れるよう求めています。初日には町長も回ったとあります。一斉徴収は2008年度に始め今年で10年目、過去9年間で約7,102万円の徴収をしたともあります。まず、このようなことから、町長、してはどうでしょうか。先程の答弁にありましたけど、やっぱり町長は、旧海部病院に15年ほど移転し、その後、その間に新設地を設け、そして、計新庁舎に移転するというふうなお考えが非常に強いように思います。町の空洞化を防ぎ過疎を助長しないことも大事、南海トラフ地震に向け死者ゼロを目指すのも大事、どちらも大事です。しかし、私は死者ゼロを目指すべきだと思っています。死んだらおしまいでしょ。町民の皆さんが生きていてくれたら復興に向け新しいまちづくりもできるではないですか。そのためには職員も一人足りとも死なせてはいけません。新しいまちづくりの大きな戦力になります。旧海部病院や東、西の浸水区域に職員を置くことは、私は反対します。また、商工会と一緒にいるような町長がおっしゃられていますけど、町職員が建物内にいることから、スムーズに避難誘導が可能であるとも言っています。東北の災害の教訓を知らないのでしょうか。見ていないのでしょうか。あの東北の災害の教訓は「でんでんこ」です。各々がそのときはみんなとにかく逃げる。命を救うためにみんなが逃げるということです。災害時に職員を避難誘導させるのですか。あの東北でも避難誘導していた議員、職員、消防、亡くなっています。そういうことも考えて旧海部病院へ行くということをもう一度、足元から考えてほしいと思います。どうかここでちゃんとその返事をいただきたいと思います。以上、再問です。答弁をお願いします。

**枅富議長** 福井町長。

**福井町長** 役場庁舎を一時的と言いますか、ある一定の期間海部病院に移したいというのは、新しい役場庁舎の位置が、まずなかなか決まらないだろうという想定と、それと財源的に今急に急いでやるのは非常に厳しい状況であるという中での判断です。町民の皆さんが私がどう考えているということも大事かもわかりませんが、町民の皆さんがどう考えているかということも大事だと思います。町民の皆さんが役場が旧海部病院へ移ったらいいかどうかというふうな調査をされましたか。おそらく多くの方がそうしましようと言います。というのは、町民の皆さんは、今日明日の生活がかかっていると思うのです。だから、それを生き抜くためにも何としても町を残してほしい。元気な町を残してほしい。できるだけ現状維持してほしいというふうな願いがあると思います。そこをまず解決することが大事かと思っています。例えば、20年後に地震津波があった場合に牟岐町に殆ど人がいなくなっていたという状況も想定されますし、また、逆に1年先に地震津波があったときに、この旧庁舎に職員が居ながら、新しい役場を建設中だというふうなことも想定されます。だから、理想を言えば、財源があるのであれば、役場ができるまでの間は旧海部病院に移っていて、新しい役場ができたら移転するという事も考えられますけど、その場合でも、やはり私としたら町民の皆さんが生活が一番優先すべきだと思っています。今日明日が生きられないのに先の災害時が生きられないのです。それを何とかしたいということで悩んでいるわけです。単純に安全なところに移るというのだったら、本当に簡単です。そこを検討委員会でも十分にご検討いただけるとすんなりと判断できると思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

**枅富議長** 町長、ここは議会です。町民の皆さんの代表の集まりです。それを議会議員を放っておいて町民の皆さんがそう言っていますか。そういう話しはないです。議会制民主主義です。

福井町長 今の答弁は。

杣富議長 おかしいです。

福井町長 おかしいですか。

杣富議長 おかしいです。

福井町長 以上です。

杣富議長 榎谷議員。

榎谷議員 今の答弁を聞いていてもわかるように、私達議会は何でしょう。何なのでしょう。私達議会は町民の負託を受けてこの場に立っています。町民の意見というのは、私達議員の意見なのです。その意見で今一般質問をし、再問もしたわけなのです。だから、それをいち榎谷だけが言っているというふうな考え方に捉えないでほしいです。町長それは抜けています。「町民の皆様」、  
「町民の皆様」と言いますが、町民の皆さんの代表なのです私達は、町民の皆さんにしっかり聞いて、この場で聞いたことを言っているのです。何も個人的なことを言っていません。今日も昨日もこの検討委員会のことを是非とも言ってほしいと負託されました。あっちこっちから言ってきているのです。それを集約して一般質問をし、再問もしてきているのです。町民の皆さんに聞いてください、町民の皆さんに聞いてください。私達は何だと思っているのですか。そこをもう一回考え直してもらえませんか。私が再問で言ったように何も町が衰退するのを望んでいるわけではありません。しかし、旧海部病院に行くのには、そのままずっと行けないのです。5億円ぐらいかかるのですよ。向うに行くのにリフォームし移転することに。新庁舎が建つぐらいのものがあそこに行く

くのかかるのです。それだけの財源があるのならどうぞ行ってください。そうしてください。町長の思いのまま、決して間違っていない。してください。だけど財源がないのです。ないところに庁舎1つ建つぐらいの財源を使って旧の海部病院に移転し、また、庁舎を建てるのにそれぐらいの財源ありますか。本当に私達の子や孫やひ孫まで借金を残すことになるのです。私はそうしてはならないと思って声を大にして言っているわけなのです。財源の確保をまず考えてほしいと思います。議長、これで私の一般質問を終わります。